



安全上のご注意..... 2

使用上のご注意..... 2

RC-600 の構成..... 3

準備する..... 4

トップ・パネル..... 4

リア・パネル（機器の接続）..... 7

電源を入れる／切る..... 7

ファンタム電源の設定..... 7

プレイ画面の切り替え..... 8

入出力レベルの調節..... 8

ペダル・モード..... 9

ループ・フレーズを作る..... 10

1 つのトラックに録音する..... 10

複数のトラックに録音する..... 11

リズムを聞きながら録音する..... 12

リズムを鳴らす..... 12

リズムのテンポを設定する..... 12

インプット FX を使う..... 12

メモリーの保存..... 13

メモリーを保存する（WRITE）..... 13

メモリーのデータを消去する（CLEAR）..... 13

メモリーのエディット..... 14

メモリーの設定をエディットする..... 14

トラックの設定をエディットする..... 15

リズムの設定をエディットする..... 16

リズムの再生／停止方法を変更する..... 16

インプット FX / トラック FX の設定をエディットする..... 17

システム設定（MENU）..... 18

USB でパソコンを接続する..... 20

データのバックアップ／復元をする..... 20

MIDI を使って機器をコントロールする..... 21

MIDI の設定..... 21

RC-600 → 外部 MIDI 機器の操作..... 21

外部 MIDI 機器 → RC-600 の操作..... 22

2 台の RC-600 を接続する..... 22

資料..... 23

トラブルシューティング..... 23

エラー・メッセージ一覧..... 24

工場出荷時の設定に戻す（ファクトリー・リセット）..... 25

主な仕様..... 26

📖 取扱説明書（本書）

最初に読んでください。基本的な使いかたを説明しています。

📄 パラメーター・ガイド（Webからダウンロード）

本機のすべてのパラメーターについて説明しています。

パラメーター・ガイドの入手方法

1. パソコンなどで下記の URL を入力します。

<https://www.boss.info/jp/manuals/>

2. 製品名「RC-600」を選びます。



本機を正しくお使いいただくために、ご使用前に『安全上のご注意』と『使用上のご注意』（『安全上のご注意』チラシと取扱説明書（P.2））をよくお読みください。お読みになったあとは、すぐに見られるところに保管しておいてください。

© 2021 Roland Corporation

安全上のご注意

⚠ 警告

AUTO OFF 機能について

本機は、演奏や操作をやめてから一定時間経過すると自動的に電源が切れます (AUTO OFF 機能)。

自動的に電源が切れないようにするには、AUTO OFF 機能を解除してください (P.19)。



⚠ 警告

付属の AC アダプターを AC100V で使用する

AC アダプターは、必ず付属のものを、AC100V の電源で使用してください。



付属の電源コードを使用する

電源コードは、必ず付属のものを使用してください。また、付属の電源コードを他の製品に使用しないでください。



⚠ 注意

接地端子の取り扱いに注意する

接地端子ネジは、お様が誤って飲み込んだりすることのないよう取りはずした状態で放置しないでください。再度ネジを取り付ける際は、ゆるんではずれないように確実に取り付けてください。



ファンタム電源の取り扱いについて

ファンタム電源供給の必要なコンデンサー・マイクを接続したとき以外は、ファンタム電源を必ずオフにしてください。ダイナミック・マイクやオーディオ再生装置などにファンタム電源を供給すると故障の原因になります。マイクの仕様については、お使いのマイクの取扱説明書をお読みください。



(本機のファンタム電源 : DC 48V、10mA Max)

使用上のご注意

電池について

- AC アダプターは、インジケーターのある面が上になるように設置してください。AC アダプターをコンセントに接続すると、インジケーターが点灯します。
- 設置条件 (設置面の材質、温度など) によっては、本機のゴム足が設置した台などの表面を変色または変質させることがあります。

修理について

- 修理を依頼されるときは、事前に記憶内容をバックアップするか、メモしておいてください。修理するときには記憶内容の保存に細心の注意を払っておりますが、メモリ部の故障などで記憶内容が復元できない場合があります。失われた記憶内容の修復に関しましては、補償も含めご容赦願います。
- 当社では、本機の補修用性能部品 (製品の機能を維持するために必要な部品) を、製造打切後 6 年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。なお、保有期間を過ぎたあとでも、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、お買い上げ店、またはローランドお客様相談センターにご相談ください。

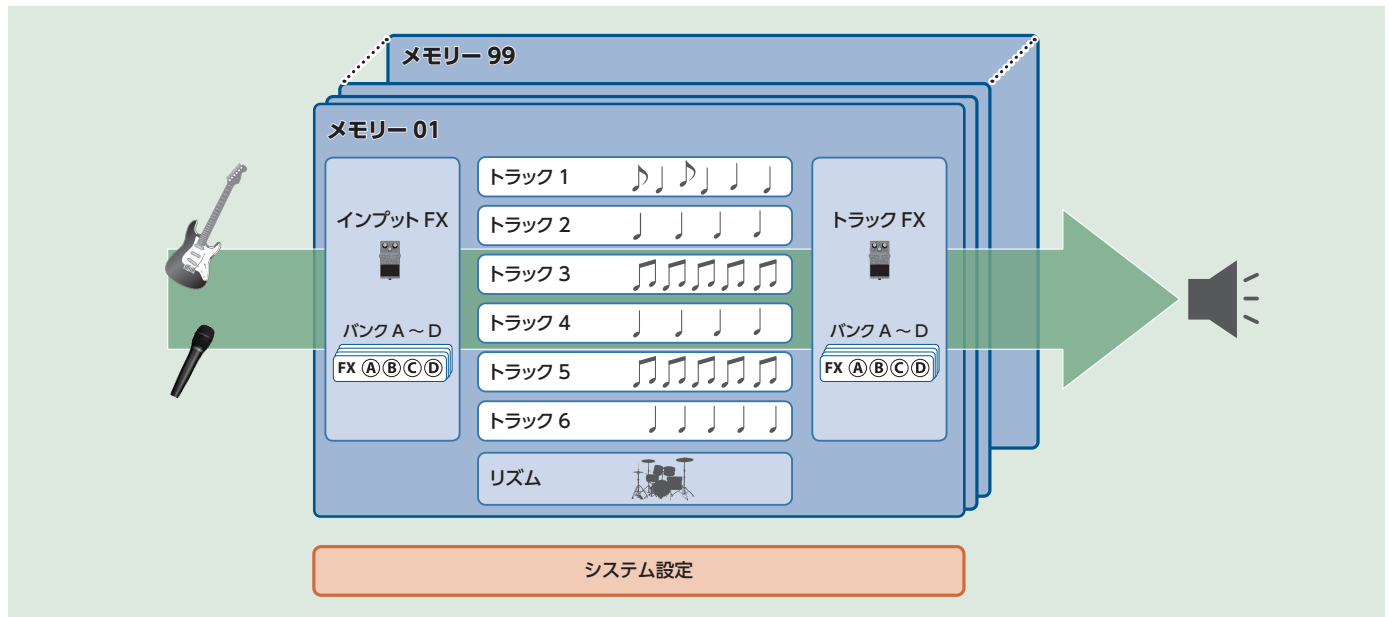
その他の注意について

- 記憶した内容は、機器の故障や誤った操作などによって失われることがあります。失っても困らないように、大切な記憶内容はバックアップしておいてください。
- 失われた記憶内容の修復に関しましては、補償を含めご容赦願います。
- ディスプレイを強く押ししたり、叩いたりしないでください。
- エクスプレッション・ペダルは、必ず指定のもの (別売 : FV-500H、FV-500L、EV-30、Roland EV-5) をお使いください。他社製品を接続すると、本体の故障の原因になる場合があります。
- 抵抗入りの接続ケーブルは使用しないでください。

知的財産権について

- 第三者の著作物 (音楽作品、映像作品、放送、実演、その他) の一部または全部を、権利者に無断で録音、録画、複製あるいは改変し、配布、販売、貸与、上演、放送などを行うことは法律で禁じられています。
- 第三者の著作権を侵害する恐れのある用途に、本製品を使用しないでください。お客様が本製品を用いて他者の著作権を侵害しても、当社は一切責任を負いません。
- 製品に内蔵、付属されたコンテンツ (音色波形データ、スタイル・データ、伴奏パターン、フレーズ・データ、オーディオ・ループ、画像データなど) の著作権は当社が保有しています。
- 製品に内蔵、付属されたコンテンツ (ただしデモ曲などの楽曲データは除く) を素材として、お客様が新たな作品を制作、演奏、録音、配布をするに関しては、当社の許諾を必要としません。
- 製品に内蔵、付属されたコンテンツを、そのまま、もしくは酷似した形態で取り出し、別の記録媒体に固定して配布したり、コンピューター・ネットワークを通じて公開したりすることはできません。
- 本製品には、イーソル株式会社のソフトウェアプラットフォーム「eParts™」が搭載されています。
- 本製品は、T-Engine フォーラム (www.tron.org) の T-License 2.0 に基づく T-Kernel ソースコードを利用しています。
- 本製品には、第 3 者のオープンソースソフトウェアが含まれています。
Copyright © 2009-2019 ARM Limited. All rights reserved.
Licensed under the Apache License, Version 2.0 (the "License");
You may obtain a copy of the License at
<http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0>
Copyright © 2016, Freescale Semiconductor, Inc.
Copyright 2016-2019 NXP. All rights reserved.
Licensed under the BSD-3-Clause;
You may obtain a copy of the License at
<https://opensource.org/licenses/BSD-3-Clause>
Copyright © 2020 Amazon.com, Inc. or its affiliates. All Rights Reserved.
Licensed under the MIT license
<https://opensource.org/licenses/mit-license.php>
- Roland、BOSS、LOOP STATION は、日本国およびその他の国におけるローランド株式会社の商標、または登録商標です。
- 文中記載の会社名および製品名などは、各社の登録商標または商標です。

RC-600の構成



トラック

マイクの音声や楽器演奏を録音し、再生します。
トラック 1 ～ 6 を組み合わせて使うことができます。

メモリー

トラック 1 ～ 6、インプット FX / トラック FX とリズムの設定を 1 つにまとめたものを「メモリー」と呼びます。
メモリーは最大 99 種類記憶することができます。

インプット FX、トラック FX

入力音にかかるエフェクトを「インプット FX」、トラックにかかるエフェクトを「トラック FX」と呼びます。
インプット FX / トラック FX 共に、16 個 (4 バンク × 4 タイプ) のエフェクトを使うことができます。

システム設定

ディスプレイのコントラスト調節、USB や MIDI の設定など、RC-600 全体で共通の設定を「システム設定」と呼びます。

リズム

トラック 1 ～ 6 の再生に加えて「リズム」を鳴らすことができます。
あらかじめ設定したテンポでリズムを鳴らしながら録音することができます。

【録音】と【オーバーダビング】

本書では、空のトラックに最初に録音することを「録音」、録音した音にさらに音を重ねる 2 周目以降の録音を「オーバーダビング」と呼びます。

English

日本語

Deutsch

Français

Italiano

Español

Português

Nederlands

準備する

トップ・パネル



1

[OUTPUT LEVEL] つまみ

RC-600 の音量を調節します。

ディスプレイ

RC-600 のいろいろな情報を表示します。

[1] ～ [4] つまみ

画面に表示されるパラメーターの値を設定します。



- つまみを押しながら回すと、値を大きく変化させることができます。
- パラメーターによっては、つまみを押して設定値を変更します。

2

[MENU] ボタン

RC-600 全体にかかわるシステムの設定や、USB / MIDI の設定をします。

[LOOP] ボタン

メモリーをエディットするときに押します。

トラック1～6の設定、ループ再生／録音などに関する設定、インプットFX／トラックFXの設定、リズムの設定、メモリー・ネームの設定をします。

[RHYTHM] ボタン

ボタンを押すたびに、リズムのオン（点灯）／オフ（消灯）／待機（点滅）が切り替わります。

[TAP TEMPO] ボタン

ボタンを押す間隔でリズムのテンポを設定します（タップ・テンポ）。このとき、画面にテンポが表示されます。

ボタンを長押しすると、元のテンポに戻ります。

3

[EXIT] ボタン

前の画面に戻るときに押します。

[ENTER] ボタン

操作を確定するときに押します。

- プレイ画面が表示されているときに [ENTER] ボタンを押すと、ミキサー画面に切り替わります。
- [EXIT] ボタンと [ENTER] ボタンを同時に押すと、メモリーの保存（ライト）やメモリーのデータ消去（クリア）をすることができます。

PAGE [◀] [▶] ボタン

カーソルの移動、ページの切り替えをするときに押します。

プレイ画面が表示されているときに押すと、プレイ画面のバリエーションを切り替えることができます。

ロック機能

プレイ画面で、PAGE [◀] [▶] ボタンを同時に押すとロック機能がオンになり、[1] ～ [4] つまみの操作が効かなくなります。誤って設定が変わってしまうことを防ぐことができます。もう一度同時に押すと、ロック機能がオフになります。

4

ループ・インジケータ

トラックの状態／ループ位置を表示します。

5

[TRACK SELECT] スイッチ／インジケーター

トラック 1 ～ 3 / トラック 4 ～ 6 を切り替えます。

インジケーター	説明
白点灯	トラック 1 ～ 3
赤点灯	トラック 4 ～ 6

[TRACK SELECT] スイッチを長押しするとインジケーターが青点灯に変わり、本体スイッチの機能が変わります。

[UNDO/REDO] スイッチ／インジケーター

再生中／オーバーダビング中にスイッチを押すと、録音または最後のオーバーダビングを取り消し（アンドゥ）します。
もう一度スイッチを押すと、取り消しをキャンセル（リドゥ）します。

インジケーター	説明
緑点灯	アンドゥ可能
赤点灯	リドゥ可能
消灯	アンドゥ／リドゥ不可

TRACK SELECT インジケーター：青点灯のとき

[HALF SPEED] スイッチ／インジケーターとして、現在選ばれているトラック（カレント・トラック）の再生速度を切り替えます。

インジケーター	説明
点灯	1/2 の再生速度
消灯	通常の再生速度

メモ

現在選ばれている（操作対象の）トラックを、「カレント・トラック」と呼びます。

[ALL START/STOP] スイッチ／インジケーター

すべてのトラックを同時にスタート（再生）させます。
再生／録音中にボタンを押すと、すべてのトラックがストップ（停止）します。

TRACK SELECT インジケーター：青点灯のとき

[REVERSE] スイッチ／インジケーターとして、現在選ばれているトラック（カレント・トラック）の通常再生／リバース再生を切り替えます。

インジケーター	説明
点灯	リバース再生
消灯	通常再生

6

[REC/PLAY] 1 ～ 6 スイッチ／インジケーター

録音／再生／オーバーダビングを切り替えます。

空のフレーズの場合：

録音 → 再生 → オーバーダビング

データがあるフレーズの場合：

再生 → オーバーダビング

インジケーター	説明
青点灯	フレーズなし
赤点灯	録音中
緑点灯	再生中
黄点灯	オーバーダビング中
白点灯	停止中（フレーズあり）

メモ

録音／再生／オーバーダビング時の、インジケーターの点灯色を変更することができます。

→ [LOOP STATUS COLOR] (P.19)

[STOP] 1 ～ 6 スイッチ／インジケーター

現在録音／再生／オーバーダビング中のトラックを停止します。
スイッチを長押し（2 秒以上）すると、トラックがクリアされます。

インジケーター	説明
青点灯	フレーズなし
白点灯	フレーズあり

TRACK SELECT インジケーター：青点灯のとき

INPUT [A] ～ [C] スイッチ／インジケーター、TRACK [A] ～ [C] スイッチ／インジケーターの機能になります。

INPUT [A] ～ [C] スイッチ／インジケーター

現在選ばれているインプット FX のバンクにあるエフェクト A ～ C のオン／オフを切り替えます。

TRACK [A] ～ [C] スイッチ／インジケーター

現在選ばれているトラック FX のバンクにあるエフェクト A ～ C のオン／オフを切り替えます。

インジケーター	説明
赤点灯	エフェクト：オン
ピンク点灯	操作／エディット対象のエフェクト（エフェクト：オン）
消灯	エフェクト：オフ

English

日本語

Deutsch

Français

Italiano

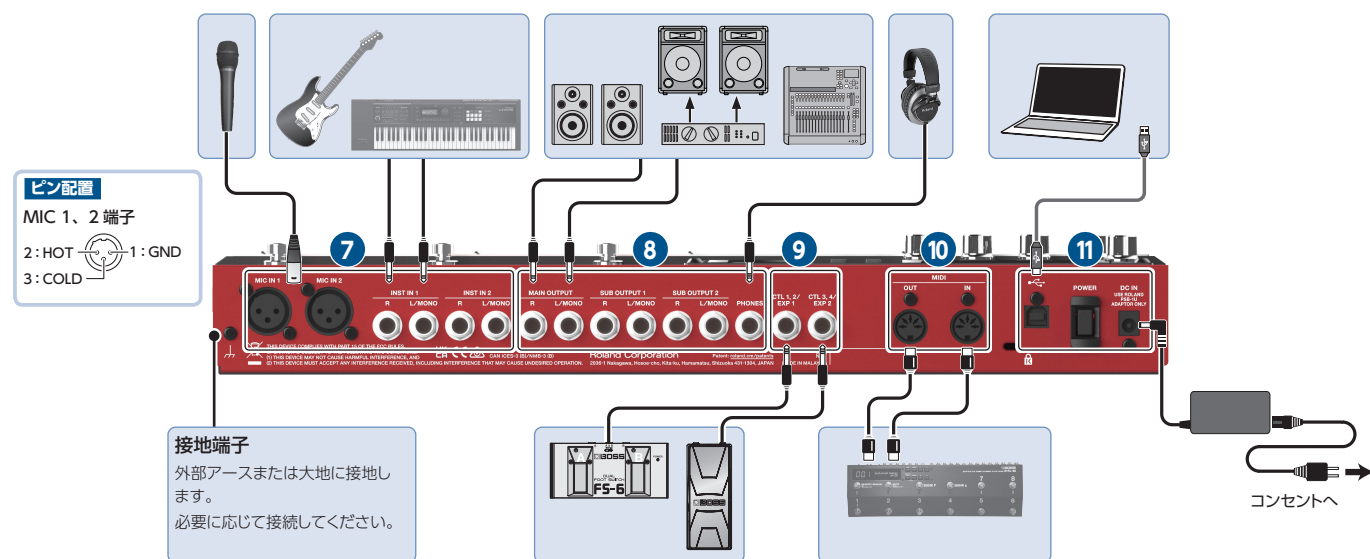
Español

Português

Nederlands

リア・パネル（機器の接続）

他の機器と接続するときは、誤動作や故障を防ぐため、必ずすべての機器の音量を絞り、すべての機器の電源を切ってください。



7

MIC IN 1, 2 端子

マイクを接続します。

- ※ ファンタム電源が必要なコンデンサー・マイクを使用する場合は、本機のファンタム電源をオンにしてください (P.7)。

INST IN 1, 2 端子 (L/MONO, R)

ギター／ベースやエフェクト、キーボードなどを接続します。

8

**MAIN OUTPUT 端子 (L/MONO, R)
SUB OUTPUT 1, 2 端子 (L/MONO, R)**

アンプやモニター・スピーカー、ミキサーに接続します。

メモ

MAIN / SUB 端子を、トラックの音を個別に出力することができるパラアウト端子 (モノ出力×6) に設定することができます。

➡ 『パラメーター・ガイド』 (PDF)

PHONES 端子

ヘッドホンに接続します。

メモ

指定した音だけをヘッドホンで聴けるように設定することができます。

➡ 『パラメーター・ガイド』 (PDF)

9

CTL 1, 2/EXP 1 端子、CTL 3, 4/EXP 2 端子

別売のフットスイッチやエクスプレッション・ペダルを接続して、さまざまな機能をコントロールすることができます。

- ※ エクスプレッション・ペダルは、必ず指定のもの (別売: FV-500H、FV-500L、EV-30、Roland EV-5) をお使いください。他社製品を接続すると、本体の故障の原因になる場合があります。

10

MIDI OUT、MIDI IN 端子

外部 MIDI 機器を接続します。

本機と外部 MIDI 機器との間で、MIDI を使った機器のコントロールが可能になります。

11

USB 端子

USB2.0 に対応した市販の USB ケーブルでパソコンに接続します。本機とパソコンの間で、データのバックアップ／復元ができます。また、USB AUDIO でパソコンの音を本機で鳴らしたり、USB MIDI でパソコンの DAW とテンポ同期したりすることもできます。

[POWER] スイッチ

電源をオン／オフします。

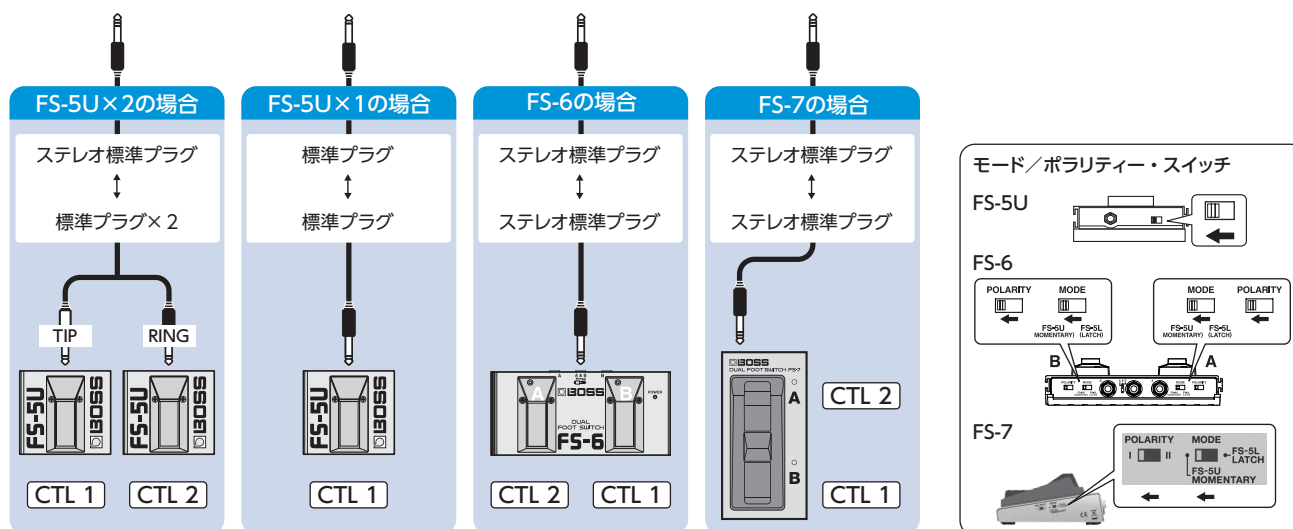
DC IN 端子

付属の AC アダプターを接続します。

- ※ AC アダプターは、必ず指定のもの (PSB-1U) を、AC100V の電源で使用してください。

フットスイッチの接続

下図を参考にフットスイッチを接続し、モード／ポラリティー・スイッチを設定してください。



電源を入れる／切る

電源を入れる／切るときは、音量を絞ってください。音量を絞っても電源を入れる／切るときに音がすることがありますが、故障ではありません。

電源を入れるとき

本機 ([POWER] スイッチ: オン) → 接続した機器 → アンプの順で電源を入れます。

電源を切るとき

アンプ → 接続した機器 → 本機 ([POWER] スイッチ: オフ) の順で電源を切ります。

本機は、演奏や操作をやめてから一定時間経過すると自動的に電源が切れます (AUTO OFF 機能)。

自動的に電源が切れないようにするには、AUTO OFF 機能を解除してください (P.19)。

- 電源が切れると保存していないデータは失われます。残しておきたいデータはあらかじめ保存しておいてください (P.13)。
- 電源を再びオンにするときは、電源を入れ直してください。

ファンタム電源の設定

ファンタム電源が必要なコンデンサー・マイクを使用する場合は、以下の設定でファンタム電源をオンにしてください。

1. [MENU] ボタンを押します。



2. [1] (INPUT) つまみを押します。



3. [1] (SETUP) つまみを押します。



4. [1] (MIC1) つまみ／[2] (MIC2) つまみを回して、PHANTOMを「ON」にします。

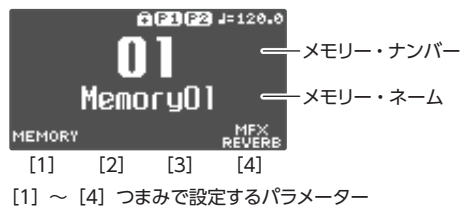
5. [EXIT] ボタンを押して、プレイ画面 (P.8) に戻ります。

注意

ファンタム電源供給の必要なコンデンサー・マイクを接続したとき以外は、ファンタム電源を必ずオフにしてください。

プレイ画面の切り替え

起動後に表示される画面を「プレイ画面」と呼びます。



アイコン	説明
J=120.0	テンポ
[F1][F2]	MIC IN 1、2 端子のファンタム電源がオン (オフ:非表示)
[+]	ノブ・ロック機能がオン (オフ:非表示)

プレイ画面が表示されているときに PAGE [◀] または PAGE [▶] ボタンを押すと、プレイ画面のバリエーションを切り替えることができます。

(1) MEMORY NUMBER



(2) TRACK STATUS

ループ・トラックの状態をアイコン表示



アイコン	説明
[録音/再生]	録音/再生/オーバーダビング中
[停止]	停止中 (フリーズあり)
[フリーズなし]	フリーズなし
[カレント]	カレント・トラック

(3) LOOP TRACKS

トラックの状態 + 再生時の進行状況を表示



(4) LOOP STATUS

カレント・トラックの状態を表示



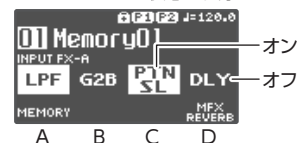
(5) LOOP LEVEL

各トラックの音量をレベル・メーター表示



(6) INPUT FX

インプット FX の状態を表示



(7) TRACK FX

トラック FX の状態を表示



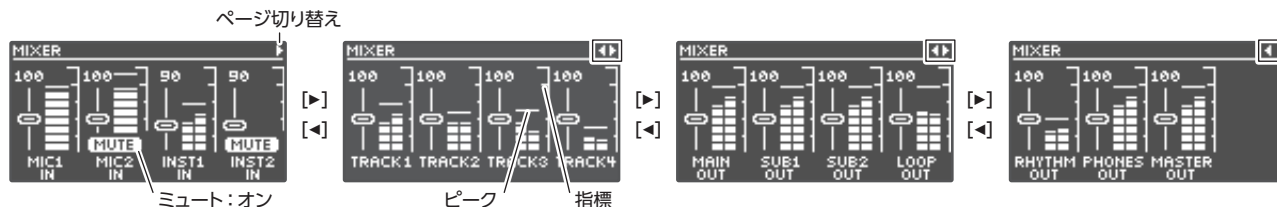
※ 起動後に表示するプレイ画面は、変更することができます。

➡ 『パラメーター・ガイド』(PDF)

入出力レベルの調節

プレイ画面が表示されているときに [ENTER] ボタンを押すと、ミキサー画面が表示され、各端子の入出力レベルと各トラックのレベルを確認することができます。

PAGE [◀] [▶] ボタンでページを切り替え、[1] ~ [4] つまみで、各入出力/各トラックのレベルを調節することができます。



- ピークが、図に示した指標に重なるようにレベルを調節します。
- 入力の場合は、[1] ~ [4] つまみを押して音をミュートすることができます。
- [MASTER OUT] は、MAIN OUTPUT / SUB OUTPUT 1 / SUB OUTPUT 2 のレベルを総合的に調節します。
工場出荷時は、[OUTPUT LEVEL] つまみでも調節できる設定になっています。

レベル・メーターのミキサー画面に表示される端子は、ステレオ・リンクの設定によって変わります。

ステレオ・リンク	説明
ON	MIC IN 1 と 2、L と R を 1 つの端子にまとめて表示します。
OFF	MIC IN 1 と 2、L と R を個別に表示します。

※ ステレオ・リンクの詳細については、『パラメーター・ガイド』(PDF) をご覧ください。

ペダル・モード

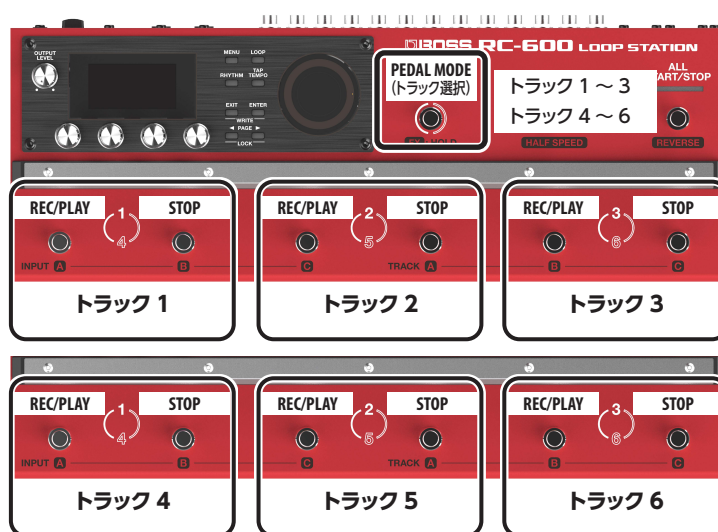
「ペダル・モード」は、本体スイッチ（9 個）に好みの機能を割り当てたものを 1 つのセットにまとめる機能です。録音／再生／オーバーダビングなどのスイッチ操作が効率的にできるようになります。

- ペダル・モードには MODE 1 ～ 3 があり、3 種類のセットを切り替えて使うことができます。
- MODE 1 ～ 3 を切り替える機能も、好みのスイッチに割り当てることができます。
- MODE 1 ～ 3 の設定はメモリーに保存することもできます。メモリーごとに設定の異なるペダル・モードが使えます。

設定例

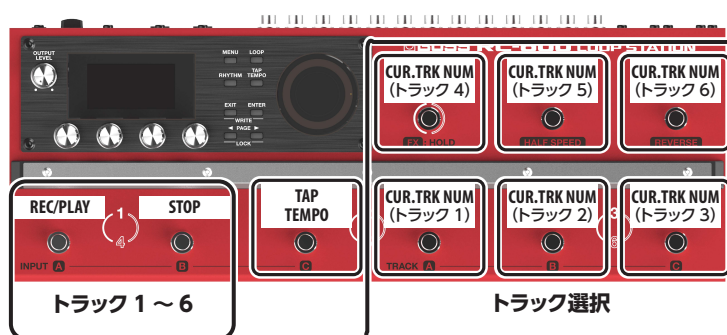
(1)

RC-600 の基本設定（工場出荷時の設定）です。



(2)

目的のトラックがすぐに選べる設定です。



ペダル・モードの設定

ペダル・モードは、MENU 画面で「CTL FUNC」→「PEDAL MODE1」～「PEDAL MODE3」を選んで設定します（P.18）。パラメーターの詳細については、『パラメーター・ガイド』（PDF）をご覧ください。

ループ・フレーズを作る

1 つのトラックに録音する

ここでは「トラック 1」に録音／オーバーダビングする手順を説明します。

録音の準備

1. ギターやマイクを接続します。
2. 入出力レベルを調節します (P.8)。
3. [OUTPUT LEVEL] つまみで、RC-600 の音量を調節します。



4. プレイ画面で [1] (MEMORY) つまみを回して、メモリーを選びます。

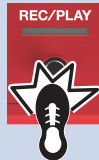


5. [TRACK SELECT] スイッチを踏んで、トラック 1 ～ 3 を選びます。



インジケーター	説明
白点灯	トラック 1 ～ 3
赤点灯	トラック 4 ～ 6

録音



1. [REC/PLAY] 1 スイッチを踏んで、録音をスタートします。
REC/PLAY インジケーターが赤点灯になります。
2. ギターを演奏、またはマイクから音声を入力します。



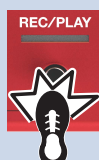
再生



1. [REC/PLAY] 1 スイッチを踏みます。
REC/PLAY インジケーターが緑点灯になります。
録音したフレーズがループ再生されます。



オーバーダビング



1. [REC/PLAY] 1 スイッチを踏んで、オーバーダビングをスタートします。
REC/PLAY インジケーターが黄点灯になります。
2. ループ再生しているフレーズに演奏（音声）を重ねて録音します。



再生



必要な分だけ繰り返します。

オーバーダビング

：

停止



1. [STOP] 1 スイッチを踏みます。
REC/PLAY インジケーターが白点灯になります。
録音したフレーズを残しておきたいときは、メモリーの保存操作 (P.13) をしてください。

アンドゥ／リドゥ

再生中／オーバーダビング中に [UNDO/REDO] スイッチを踏むと、アンドゥします。

もう一度 [UNDO/REDO] スイッチを踏むと、リドゥします。



インジケーター	説明
緑点灯	アンドゥ可能
赤点灯	リドゥ可能
消灯	アンドゥ／リドゥ不可

複数のトラックに録音する

複数のトラックを使って、1つのループ・フレーズを作ります。

ここでは、トラック 1 → トラック 2 → ... トラック 6 の順で録音をする手順を説明します。



アンドゥ／リドゥ

再生中／オーバーダビング中に [UNDO/REDO] スイッチを踏むと、アンドゥします。

もう一度 [UNDO/REDO] スイッチを踏むと、リドゥします。



インジケーター	説明
緑点灯	アンドゥ可能
赤点灯	リドゥ可能
消灯	アンドゥ／リドゥ不可

リズムを聞きながら録音する

RC-600 は、トラック再生に加えて「リズム」を鳴らすことができます。あらかじめ設定したテンポでリズムを鳴らしながら録音すれば、正確なテンポで録音ができるようになります。



リズムを鳴らす

1. [RHYTHM] ボタンを押します。

ボタンを押すたびに、リズムのオン(点灯)／オフ(消灯)／待機(点滅) が切り替わります。

リズムのテンポを設定する

1. [TAP TEMPO] ボタンを押します。

テンポ設定画面が表示されます。



2. テンポ設定画面が表示されている間に [4] つまみを回して、テンポを設定します。

設定値	40.0 ~ 300.0
-----	--------------

メモ

[4] つまみを押してから回すと、小数点以下の値を設定することができます。

タップ・テンポ

ボタンを叩く間隔でテンポを設定することができます。

1. 設定したいテンポに合わせて、[TAP TEMPO] ボタンを数回叩きます。

メモ

[TAP TEMPO] ボタンを赤点滅するまで長押しすると、初期値に戻ります。

- 設定したテンポは、メモリーの設定として保存することができます。
➡ 「メモリーを保存する (WRITE)」 (P.13)
- リズムの音量やリズムの種類 (バリエーション)、リズムの鳴らしかたを設定することができます。
➡ 「リズムの設定をエディットする」 (P.16)

インプット FX を使う

入力音にインプット FX をかけることができます。

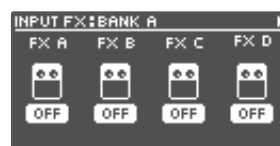


1. [LOOP] ボタンを押します。

LOOP 画面が表示されます。



2. PAGE [▶] ボタンでページを切り替えてから、[1] (INPUT FX) つまみを押します。



3. [1] ~ [4] つまみを回して、エフェクト (FX A ~ D) のオン／オフを設定します。

バンクの切り替え

4. PAGE [▶] ボタンでページを切り替えてから、[1] (BANK) つまみを回してバンクを選びます。



トラック FX を使う

5. 録音済みのトラックにトラック FX をかけるときは、手順 2 で [2] (TRACK FX) つまみを押してから、インプット FX と同様の操作をします。

- 設定したエフェクトは、メモリーの設定として保存することができます。
➡ 「メモリーを保存する (WRITE)」 (P.13)
- エフェクトのタイプを変えたり、エフェクトの効きかたを変えたりすることができます。
➡ 「インプット FX / トラック FX の設定をエディットする」 (P.17)

メモリーの保存

メモリーを保存する (WRITE)

録音や設定変更をしたあとに、別のメモリーを選んだり電源を切ったりすると、録音したループ・フレーズや変更した設定は消えてしまいます。大事なデータは保存しましょう。



1. [EXIT] ボタンと [ENTER] ボタンを同時に押します。

WRITE 画面が表示されます。



2. [1] または [2] (WRITE) つまみを押します。



3. [1] ~ [4] つまみを回して、保存先のメモリーを選びます。

- 現在選んでいるメモリーに保存する場合は、この手順は不要です。
- 中止するときは、[EXIT] ボタンを押します。

4. [ENTER] ボタンを押します。

メモリーが保存されます。

※「EXECUTING...」と表示されている間は絶対に電源を切らないでください。

メモ

メモリーに名前を付けることができます。詳しくは『パラメーター・ガイド』(PDF) をご覧ください。

メモリーのデータを消去する (CLEAR)

各メモリーに保存されているデータを消去して、空のメモリーにします。

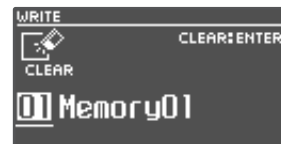


1. [EXIT] ボタンと [ENTER] ボタンを同時に押します。

WRITE 画面が表示されます。



2. [3] または [4] (CLEAR) つまみを押します。



3. [1] ~ [4] つまみを回して、クリアするメモリーを選びます。

- 現在選んでいるメモリーに保存する場合は、この手順は不要です。
- 中止するときは、[EXIT] ボタンを押します。

4. [ENTER] ボタンを押します。

メモリーがクリアされます。

※「EXECUTING...」と表示されている間は絶対に電源を切らないでください。

メモリーのエディット

メモリーの設定をエディットする

各メモリーの設定をエディットします。

パラメーターの詳細については、『パラメーター・ガイド』(PDF) をご覧ください。

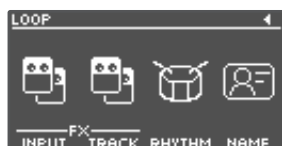


1. [LOOP] ボタンを押します。

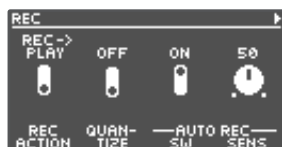
LOOP 画面が表示されます。



2. PAGE [◀] [▶] ボタンで、エディットしたい項目があるページに切り替えます。



3. [1] ～ [4] つまみを押して、エディットする項目を選びます。



4. PAGE [◀] [▶] ボタンで、エディットしたいパラメーターがあるページに切り替えます。



5. [1] ～ [4] つまみを回して、設定値を変更します。

6. [EXIT] ボタンを数回押して、プレイ画面に戻ります。

7. エディットした設定を保存するときは、ライト操作 (P.13) をします。

項目	説明
TRACK	トラック 1 ～ 6 の設定をします。 [1] つまみを回して、エディット対象のトラックを選ぶことができます。
REC	録音／オーバーダビングに関する設定をします。
PLAY	ループ・フレーズの再生のしかたを設定します。
INPUT FX	インプット FX の設定をします。
TRACK FX	トラック FX の設定をします。
RHYTHM	リズムの設定をします。
NAME	メモリー・ネームを設定します。 ※最大 12 文字まで

トラックの設定をエディットする

トラック 1 ～ 6 のそれぞれについて、音量や再生方法などを設定します。
パラメーターの詳細については、『パラメーター・ガイド』（PDF）をご覧ください。



1. [LOOP] ボタンを押します。

LOOP 画面が表示されます。



2. [1] (TRACK) つまみを回してエディットするトラックを選び、[1] (TRACK) つまみを押します。

TRACK 画面が表示されます。



3. PAGE [◀] [▶] ボタンで、エディットしたいパラメーターがあるページに切り替えます。



4. [1] ～ [4] つまみを回して、設定値を変更します。

5. [EXIT] ボタンを数回押して、プレイ画面に戻ります。

6. エディットした設定を保存するときは、ライト操作 (P.13) をします。

項目	説明	
REVERSE	通常再生するか、リバース再生するかを設定します。	
1SHOT	ワン・ショット再生か、通常のループ再生かを設定します。	
PAN	トラックの定位（パン）を設定します。	
PLAY LEVEL	トラックの再生レベルを調節します。	
START MODE	トラックの再生時、フェード・インしながら再生スタートさせるか、すぐに再生スタートさせるかを設定します。	
STOP MODE	トラックの止めかたを設定します。	
DUB MODE	オーバーダビングのしかたを設定します。	
FX	エフェクト（インプット FX / トラック FX）のオン／オフを設定します。 ※ 現在選んでいるトラックの [FX] ボタンを押してオン／オフを切り替えることもできます。	
PLAY MODE	ループ・フレーズの再生のしかたを設定します。	
MEASURE	トラックの小節数を設定します。 ※ このパラメーターは、LOOP SYNC SW が「ON」のときに有効です。	
LOOP SYNC	SW	ループ・シンクを使う（ON）か使わない（OFF）かを設定します。 ループ・シンクを使うと、メモリーのテンポや LOOP SYNC SW が「ON」になっている他のトラックと同期したテンポで、録音／再生をします。
	MODE	ループ・シンクの動作（同期のしかた）を設定します。
TEMPO SYNC	SW	トラックごとのオリジナル・テンポ（録音時のテンポ）で再生させるか（OFF）、メモリーに設定されているテンポで再生させるか（ON）を設定します。
	MODE	TEMPO SYNC SW が「ON」のときに、テンポの速さに応じてピッチを変化させるかピッチが変わらないようにするかを設定します。
	SPEED	各トラックの再生速度を設定します。
BOUNCE IN	録音／オーバーダビング時に、別トラックの再生音も録音できるようにするかしないかを設定します。	
INPUT	各入力端子からの音とリズムの音を、トラックに入力する（ON）かしないか（OFF）を設定します。 [1] つまみを回して入力端子または RHYTHM を選び、[1] つまみを押して ON / OFF を切り替えます。 ※ ステレオ・リンクが「ON」になっている場合は、MIC IN 1 と 2、L と R を 1 つの端子にまとめて表示します。	

リズムの設定をエディットする



1. [LOOP] ボタンを押します。

LOOP 画面が表示されます。



2. PAGE [▶] ボタンでページを切り替えてから、[3] (RHYTHM) つまみを押します。

RHYTHM 画面が表示されます。



3. PAGE [◀] [▶] ボタンで、エディットしたいパラメーターがあるページに切り替えます。



4. [1] ~ [4] つまみを回して、設定値を変更します。

5. [EXIT] ボタンを数回押して、プレイ画面に戻ります。

6. エディットした設定を保存するときは、ライト操作 (P.13) をします。

項目	説明
GENRE	リズム・パターンのジャンルを選びます。
PATTERN	リズム・パターンを選びます。
VARIATION	リズム・パターンのバリエーションを選びます。
KIT	リズム再生に使うドラム・キットを選びます。
BEAT	リズムの拍子を設定します。
START TRIG	リズム再生の始めかたを設定します。
STOP TRIG	リズム再生の止めかたを設定します。
INTRO REC	録音時にイントロを付けるか付かないかを設定します。
INTRO PLAY	イントロ付きのリズム再生にするかイントロなしのリズム再生にするかを設定します。
ENDING	エンディング付きのリズム再生にするかエンディングなしのリズム再生にするかを設定します。
FILL	フィル・イン付きのリズム再生にするかフィル・インなしのリズム再生にするかを設定します。
VARI. CHANGE	リズム・パターンのバリエーションを切り替えるタイミングを設定します。

パラメーターの詳細については、『パラメーター・ガイド』(PDF)をご覧ください。

リズムの再生／停止方法を変更する

録音のしかたや録音するフレーズに合わせて、リズムの再生／停止方法を変更します。

1. RHYTHM 画面で、「START TRIG」のあるページに切り替えます。



2. [2] (START TRIG) つまみを回して、リズムの再生方法を設定します。

3. [3] (STOP TRIG) つまみを回して、リズムの停止方法を設定します。

4. [EXIT] ボタンを数回押して、プレイ画面に戻ります。

5. エディットした設定を保存するときは、ライト操作 (P.13) をします。

パラメーター	説明
START TRIG	
LOOP START	ループ録音／再生のスタートに合わせてリズムが再生されます。
REC END	ループ録音が終了して再生に切り替わったときに、リズムが再生されます。 テンポを設定しないまま演奏 → 録音スタートし、再生スタートからリズムに合わせてループ演奏していく場合に有効です。
BEFORE LOOP	ループ録音／再生前にリズムが再生されます。 スイッチを一度踏むとリズムが鳴り出し、もう一度踏むとリズムに合わせて録音／再生がスタートします。
STOP TRIG	
OFF	リズムは常に再生し続けます。 外部 MIDI 機器と同期演奏する場合に、リズムを再生し続けることで同期演奏が可能になります。
LOOP STOP	ループ停止に合わせて、リズムが停止します。
REC END	ループ録音が終了すると、リズムが停止します。 録音時のガイドとしてリズムを使用したい場合に有効です。

インプット FX /トラック FX の設定をエディットする

パラメーターの詳細については、『パラメーター・ガイド』（PDF）をご覧ください。



1. インプット FX /トラック FX の設定をエディットするメモリーを選びます。

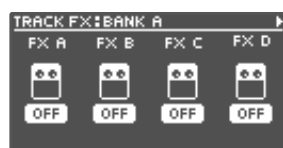
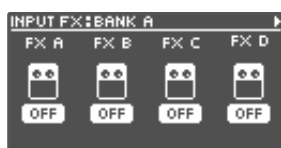
2. [LOOP] ボタンを押します。

LOOP 画面が表示されます。



3. PAGE [▶] ボタンでページを切り替えてから、[1] (INPUT FX) つまみまたは [2] (TRACK FX) つまみを押します。

INPUT FX 画面 / TRACK FX 画面が表示されます。

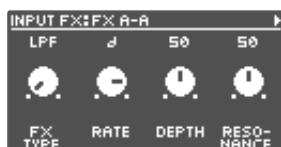


4. エディットするエフェクトのバンクを選びます。

1. PAGE [▶] ボタンでページを切り替えてから、[1] (BANK) つまみを回してバンクを選びます。

2. PAGE [◀] ボタンを押して、前のページに戻ります。

5. [1] ~ [4] つまみを押して、エディットしたいエフェクトを選びます。



6. PAGE [◀] [▶] ボタンで、エディットしたいパラメーターがあるページに切り替えます。

※ パラメーターは、選ばれているエフェクトのタイプによって変わります。

7. [1] ~ [4] つまみを回して、設定値を変更します。

8. [EXIT] ボタンを数回押して、プレイ画面に戻ります。

9. エディットした設定を保存するときは、ライト操作 (P.13) をします。

システム設定 (MENU)

パラメーターの詳細については、『パラメーター・ガイド』(PDF) をご覧ください。



1. [MENU] ボタンを押します。

MENU 画面が表示されます。



2. PAGE [◀] [▶] ボタンで、エディットしたい項目があるページに切り替えます。



3. [1] ~ [4] つまみを押して、エディットしたい項目を選びます。



4. さらに項目選択の画面が表示されたときは、手順 2 ~ 3 を繰り返します。

5. PAGE [◀] [▶] ボタンで、エディットしたいパラメーターがあるページに切り替えます。



6. [1] ~ [4] つまみを回して、設定値を変更します。

7. [EXIT] ボタンを数回押して、プレイ画面に戻ります。

項目	パラメーター／説明
INPUT	SETUP ファンタム電源のオン／オフなど、入力端子に関する設定をします。
	EQ 入力音にかけるイコライザーを、入力端子ごとに設定します。
	DYNAMICS 入力音にかけるコンプやノイズ・サプレッサーを設定します。
OUTPUT	SETUP ステレオ・リンクの設定など、出力端子に関する設定をします。
	ROUTING トラック 1 ~ 6 の再生音／各入力端子からの入力音／リズム音を、どの端子から出力するかを設定します。
	EQ 出力音にかけるイコライザーを、出力端子ごとに設定します。
	MASTER FX 出力音にかけるコンプレッサーやリバーブを設定します。
MIXER	入出力のレベルを、端子ごとに設定します (P.8)。
CTL FUNC	PANEL MODE 1 ~ 3 [REC/PLAY] スイッチ×3 / [STOP] スイッチ×3 / [TRACK SELECT] スイッチ / [UNDO/REDO] スイッチ / [ALL START/STOP] スイッチに割り当てる機能を設定します。
	CTL/EXP CTL 1, 2/EXP 1 端子 / CTL 3, 4/EXP 2 端子に接続したフットスイッチやエクスプレッション・ペダルに割り当てる機能を設定します。
	PREFERENCE PANEL MODE 1 ~ 3 と CTL/EXP の設定を、各メモリーの設定にするかシステムの設定にするかを選びます。 ※各メモリーの設定にする場合は、ライト操作でメモリーに保存します。
ASSIGN	ASSIGN 1 ~ 16 「アサイン」を設定します。 アサインを使うと、本体のスイッチ／つまみ、CTL 1, 2/EXP 1 端子 / CTL 3, 4/EXP 2 端子に接続したフットスイッチやエクスプレッション・ペダルを操作したときに、設定されている機能に加えて他のパラメーターを同時にコントロールすることができます。 外部 MIDI 機器からコントロールするように設定することもできます。 16 種類のアサインを設定することができます。
USB	STORAGE USB の動作を設定します。
	AUDIO MODE USB オーディオを使うときの、USB ドライバーを選択設定します。

項目	パラメーター／説明
USB	AUDIO ROUTING
	USB オーディオの接続先を設定します。
	INPUT LEVEL
	USB オーディオの入力レベルを設定します。
	OUTPUT LEVEL
	USB オーディオの出力レベルを設定します。
MIDI	RX CH CTL
	メモリーの切り替えやRC-600をコントロールする情報（コントロール・チェンジ）の受信チャンネルを設定します。
	RX CH RHYTHM
	ドラム音を鳴らすためのノート情報を受信するチャンネルを設定します。
	RX CH VOICE
	ハーモニーやボコーダー・エフェクト用のノート情報を受信するチャンネルを設定します。
	TX CH
	MIDI 情報の送信チャンネルを設定します。
	SYNC CLOCK
	どの入力のテンポ・クロックに同期させるかを設定します。
	SYNC OUT
	MIDI クロックを送信するかしないかを設定します。
	SYNC START
	MIDI スタート情報を受信したときに同期スタートする対象を設定します。
	PC OUT
	プログラム・チェンジを送信するかしないかを設定します。
	THRU MIDI IN
	MIDI IN 端子から入力した MIDI 情報を、どの端子に出力するかを設定します。
	THRU USB IN
	USB 端子から入力した MIDI 情報を、どの端子に出力するかを設定します。
SETUP	CONTRAST
	ディスプレイのコントラストを調節します。
	DISPLAY MODE
	起動後に表示するプレイ画面を設定します。
	LOOP INDICATOR
	ループ・インジケータ外周部の表示内容を設定します。
	ORB INDICAT
	ループ・インジケータ中央部の表示内容を設定します。
	AUTO OFF
	AUTO OFF 機能のオン／オフを設定します。
	MEMORY EXT MIN、MAX
	メモリーの切り替わる範囲（下限／上限）を設定します。
	KNOB FUNC 1 ～ 4
	[1] ～ [4] つまみに割り当てる機能を設定します。

項目	パラメーター／説明
SETUP	LOOP STATUS COLOR
	[REC/PLAY] 1 ～ 6 インジケータがトラックの状態を表すときの点灯色を設定します。
FACTORY RESET	工場出荷時の設定に戻します（P.25）。

English

日本語

Deutsch

Français

Italiano

Español

Português

Nederlands

USB でパソコンを接続する

RC-600 を USB 経由でパソコンと接続すると、以下のことができますようになります。

- RC-600 のデータを、パソコンにバックアップできます。
- パソコンにバックアップしたデータを、RC-600 に戻すことができます。
- BOSS TONE STUDIO を使って、ループ・フレーズ（オーディオ・ファイル）のインポート／バックアップをすることができます。
- オリジナルのリズム・パターンを使いたいときは、専用のリズム・コンバーターを使って RC-600 にインポートすることができます。

BOSS TONE STUDIO、リズム・コンバーターを使う場合

下記 URL にアクセスして、BOSS TONE STUDIO またはリズム・コンバーターをダウンロードしてください。

➔ <https://www.boss.info/jp/support/>

パソコンを接続する

市販の USB ケーブルを使って、RC-600 の (USB) 端子とパソコンの USB 端子を接続します。



注意

- USB ケーブルは、USB2.0 Hi-Speed 対応のものをお使いください。
- パソコンの機種によっては、正しく動作しないことがあります。対応 OS については、BOSS のホームページをご覧ください。

データのバックアップ／復元をする

1. [MENU] ボタンを押します。

MENU 画面が表示されます。



2. PAGE [◀ ▶] ボタンで「USB」のあるページを選び、[2] (USB) つまみを押します。



3. [1] (STORAGE) つまみを回して、「[PREPARING...]」にします。

4. USB ケーブルで、RC-600 の USB 端子とパソコンの USB 端子を接続します。

パソコンとの間で接続が完了すると「CONNECTING...」とメッセージが表示されます。

※ 停止状態でないときや、保存していないフレーズがあるときは USB 接続できません。

5. BOSS RC-600 ドライブを開きます。

Windows

コンピューター（またはマイコンピュータ）内の「BOSS RC-600」（またはリムーバブルディスク）を開きます。

macOS

デスクトップの「BOSS RC-600」アイコンを開きます。

6. データのバックアップ／復元をします。

バックアップ

BOSS RC-600 ドライブの「ROLAND」フォルダーごとパソコンにコピーします。

復元

※ この操作をすると、現在 RC-600 に保存されているメモリーは消えてしまいます。最初にバックアップをしてください。

BOSS RC-600 ドライブの「ROLAND」フォルダーを削除してから、パソコンにバックアップしてある「ROLAND」フォルダーを BOSS RC-600 ドライブにコピーします。

注意

復元するとき以外は、BOSS RC-600 ドライブ内のフォルダーは削除しないでください。

7. BOSS RC-600 ドライブの取り出しをします。

Windows

画面右下の [] → [] アイコンから「BOSS RC-600 の取り出し」をクリックします。

macOS

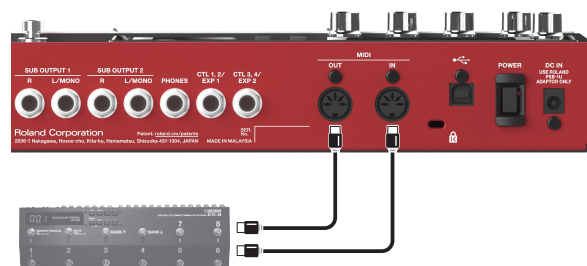
「BOSS RC-600」アイコンをゴミ箱（「取り出し」アイコン）にドラッグします。

MIDI を使って機器をコントロールする

接続

使いかたに合わせて、外部 MIDI 機器を接続します。

端子	説明
MIDI IN	他の MIDI 機器からの情報を受ける。
MIDI OUT	本機から情報を送る。



MIDI の設定

MIDI では、接続する機器との間で MIDI チャンネルを合わせる必要があります。MIDI チャンネルが正しく設定されていないと、他の MIDI 機器とのデータ送受信はできません。

MIDI 設定の各パラメーターについては、『パラメーター・ガイド』（PDF）をご覧ください。

RC-600 → 外部 MIDI 機器の操作

概要	説明
テンポ情報、再生／停止情報の送信	
RC-600 の演奏テンポの情報を、MIDI クロックとして外部 MIDI 機器に送信できます。	外部 MIDI 機器を RC-600 と同じテンポにする RC-600 からは、常に MIDI クロック情報が出力されます。 外部 MIDI 機器は、あらかじめ MIDI クロック、MIDI スタート／ストップ情報を受信できるように設定してください。詳しくは、お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。
RC-600 のボタン操作による再生／停止を、MIDI 情報のスタート／ストップとして送信できます。	スタート／ストップを送信する MIDI 情報のスタートは、トラックが停止中にトラックの録音／再生の開始と同時に送信されます。また、オール・スタート操作をした場合も送信されます。 MIDI 情報のストップは、トラックが停止したタイミングで送信されます。また、オール・ストップ操作をした場合も送信されます。 ※トラックが停止したあとも MIDI 同期演奏を続けたい場合は、RHYTHM の STOP TRIG (P.16) を「OFF」に設定します。 ※1SHOT (P.15) が「ON」のトラックと LOOP SYNC SW (P.15) が「OFF」のトラックは、スタート／ストップを送信しません。
プログラム・チェンジ情報の送信	
RC-600 でメモリーを選ぶと同時に、選んだメモリー・ナンバーに対応したプログラム・チェンジ情報が送信されます。	プログラム・チェンジを送信する RC-600 でメモリーを切り替えると、接続した外部 MIDI 機器へ MIDI のプログラム・チェンジ情報を送信します。01 ~ 99 の 99 個のメモリーに対応して、0 ~ 98 番のプログラム・チェンジ情報を送信することができます。 ※あらかじめ、PC OUT (P.19) をオンに設定してください。 ※プログラム・チェンジで 99 ~ 127 番を送信することはできません。 ※MIDI 情報のバンク・セレクト（コントロール・チェンジ #0、#32）を送信することはできません。
コントロール・チェンジ情報の送信	
本体のボタン／つまみや外部エクスプレッション・ペダル／フットスイッチの操作情報を、コントロール・チェンジ情報として出力します。	コントロール・チェンジを送信する 「アサイン」(P.18) のターゲットにコントロール・チェンジを選ぶことで、RC-600 のボタン／つまみ、外部フットスイッチ／エクスプレッション・ペダル（CTL 1, 2/EXP 1 端子／CTL 3, 4/EXP 2 端子に接続）を操作して、MIDI 情報のコントロール・チェンジを送信することができます。

English

日本語

Deutsch

Français

Italiano

Español

Português

Nederlands

外部 MIDI 機器→ RC-600 の操作

概要	説明
テンポ情報、再生／停止情報の受信	
外部 MIDI 機器からの MIDI クロックのテンポに、RC-600 が同期します。	RC-600 を外部 MIDI 機器と同じテンポにする 外部 MIDI 機器は、あらかじめ MIDI クロック、MIDI スタート／ストップ情報を送信するように設定してください。詳しくは、お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。 RC-600 の SYNC CLOCK (P.19) を「AUTO」にしてください。 ※録音中はテンポの切り替えはできません。
外部 MIDI 機器からのスタート／ストップを受信して、RC-600 が再生／停止になります。	MIDI スタートを受信する MIDI スタート (FA) を受信すると、すべてのトラックが再生されます (オール・スタート)。
メモリーの切り替え	
外部 MIDI 機器からのプログラム・チェンジ情報に対応して、RC-600 のメモリーが切り替わります。	メモリーを切り替える 外部 MIDI 機器からのプログラム・チェンジ情報で、RC-600 のメモリーを切り替えることができます。 01 ～ 99 の 99 個のメモリーに対応して、0 ～ 98 番のプログラム・チェンジ情報を受信することができます。 ※プログラム・チェンジで 99 ～ 127 番を受信しても何も起きません。 ※MIDI 情報のバンク・セレクト (コントロール・チェンジ #0、#32) を受信しても無視されます。
コントロール・チェンジ情報の受信	
外部 MIDI 機器からのコントロール・チェンジ情報で、RC-600 をコントロールすることができます。	コントロール・チェンジ情報を受信する 外部 MIDI 機器からのコントロール・チェンジ情報を利用することで、RC-600 本体の操作子だけでは操作が難しい機能を外部 MIDI 機器からコントロールすることができます。 「アサイン」(P.18) の設定で SOURCE に「MIDI CC#1 ～ #31、MIDI CC#64 ～ #95」を選び、TARGET にコントロールしたいパラメーターを選びます。

2 台の RC-600 を接続する

RC-600 同士を接続して、同期させることができます。



- 送信側 RC-600 のトラックから録音を開始します。
- 送信側 RC-600 の [ALL START/STOP] ボタンを押すと、受信側 RC-600 も再生することができます。
※ 送信側 RC-600 のトラックの再生開始に合わせて、受信側 RC-600 がオール・スタートします。
- TEMPO SYNC SW (P.15) を「ON」にしたトラックは、送信側のメモリーに設定されているテンポで再生されます。
- LOOP SYNC SW (P.15) を「ON」にしたトラックは、送信側 RC-600 の最初に録音したフレーズに合わせてループします。

トラブルシューティング

問題	確認事項	対処
音に関するトラブル		
音が出ない／音が小さい	他の機器と正しく接続されていますか？	他の機器との接続を確認してください (P.7)。
	接続しているアンプ／ミキサーの電源が入っていないか、またはボリュームが下がっていませんか？	接続している機器の設定を確認してください。
	接続ケーブルが断線していませんか？	接続ケーブルを交換してみてください。
	【OUTPUT LEVEL】つまみが下がっていませんか？	適切な位置に調節してください。
	入出力レベルは正しく設定されていますか？	MIXER 画面で、入力端子／出力端子のそれぞれついて、入力レベル／出力レベルを調節してください。
	トラック 1 ～ 6 のレベルは正しく設定されていますか？	各トラックの「PLAY LEVEL」の設定を確認してください (P.15)。 外部エクスプレッション・ペダルなどでレベルを調節する設定をしていないか確認してください (P.18)。
	トラック 1 ～ 6 の音の出力先は正しく設定されていますか？	MENU 画面の OUTPUT にある「ROUTING」の設定を確認してください (P.18)。
	録音済みですか？	各トラックの REC/PLAY インジケータを見て録音済みかどうか確認してください。青点灯している場合は、録音されていません。
リズムが鳴らない	リズムの音量は正しく設定されていますか？	MIXER 画面で、「RHYTHM OUT」の設定を確認してください。
	リズム音の出力先は正しく設定されていますか？	MENU 画面の OUTPUT にある「ROUTING」で RHYTHM の設定を確認してください (P.18)。
録音したトラックの先頭と終端の音が欠けて聞こえる	録音開始時と終了時には、ノイズが出ないようにフェード・イン、フェード・アウトの処理がされています。そのため、音が欠けて聞こえる場合があります。	
MIC IN1、2 端子／INST IN 1、2 端子に接続している機器の音が聞こえない	音の出力先が正しく設定されていますか？	MENU 画面の OUTPUT にある「ROUTING」で、MIC 1 / MIC 2 / INST 1 / INST 2 の設定を確認してください (P.18)。
操作に関するトラブル		
メモリーが切り替わらない	ディスプレイの表示がプレイ画面以外になっていませんか？	プレイ画面以外ではメモリーの切り替えができません。[EXIT] ボタンを押してプレイ画面に戻してください。
録音／オーバーダビングが途中で終わってしまう	メモリーの残量が少なくなっていないですか？	メモリー不足の場合は、不要なメモリーをクリア (P.13) してから、録音／オーバーダビングをしてください。
	トラックの LOOP SYNC SW (P.15) を「ON」にしていますか？	LOOP SYNC SW が「ON」の場合、録音中に最大ループ長を超えると自動的にオーバーダビングに切り替わります。
再生テンポが変わらない	録音中やオーバーダビング中ですか？	録音中やオーバーダビング中はメモリーのテンポを変更できません。停止中、再生中にテンポを変更してください。
	トラックの TEMPO SYNC SW (P.15) が「ON」になっていますか？	TEMPO SYNC SW が「ON」になっていないトラックは、メモリーのテンポを変更しても再生速度は変化しません。再生速度をメモリーのテンポに合わせるには、トラックの TEMPO SYNC SW を「ON」に設定してください。
再生テンポが変わらない	MIDI 同期中ですか？	MIDI IN 端子や USB 端子から MIDI クロックを受信すると、RC-600 は MIDI クロックにテンポ同期します。 外部機器と同期したくない場合は SYNC を「INTERNAL」に設定します。
MIDI 情報を送受信しない	外部 MIDI 機器と正しく接続されていますか？	外部 MIDI 機器との接続を確認してください。
	MIDI ケーブルが断線していませんか？	MIDI ケーブルを交換してください。
	外部 MIDI 機器と MIDI チャンネルが一致していますか？	両方の機器の MIDI チャンネルが一致していることを確認してください。
	(RC-600 から送信する場合) 送信するための設定がされていますか？	TX CH (送信チャンネル) の設定や、PC OUT (プログラム・チェーン情報送信) のオン／オフを確認してください。
USB に関するトラブル		
パソコンと通信できない	USB ケーブルは正しく接続されていますか？	接続を確認してください (P.20)。
	(USB でパソコンとファイルのやり取りをする場合) 「STORAGE」が OFF になっていませんか？	「データのバックアップ／復元をする」(P.20) の手順で STORAGE を「PREPARING...」にしてください。
	メモリーのエディット中ではありませんか？	保存していないメモリーがあるときは、USB 接続できません。メモリーを保存 (P.13) してから USB 接続をやり直してください。

エラー・メッセージ一覧

メッセージ	意味	対処
LOOPER		
DATA DAMAGED	データが壊れています。	ファクトリー・リセット (P.25) で「SYS + MEM」を選び、RC-600 を工場出荷時の状態に戻してください。
DATA READ ERR DATA WRITE ERR	本体メモリーの内容に問題が発生しました。	お買い上げ店、またはローランドお客様相談センターにご連絡ください。
DATA TOO LONG	録音時間／オーディオ・ファイルが長すぎるため、再生できません。	録音時間／オーディオ・ファイルの長さを 1.5 時間以内にしてください。
DATA TOO SHORT	録音時間／オーディオ・ファイルが短すぎるため、再生できません。	録音時間／オーディオ・ファイルの長さを 0.1 秒以上にしてください。
EVENT FULL	これ以上オーバーダビングができません。	メモリーを保存してください (P.13)。
MEMORY FULL	1トラックの録音時間が 1.5 時間 (約) を超えました。カレント・トラックには、これ以上録音できません。	メモリーを保存してください (P.13)。録音を続けるときは、別のメモリーを選んでください。
	メモリー全体で録音時間が 13 時間 (約) を超えました。これ以上録音できません。	不要なメモリーをクリア (P.13) してください。
NOT EMPTY	すでにフレーズが録音されているメモリー上書き保存をしようとしています。	現在選んでいるメモリーをクリア (P.13) するか、空のメモリーを選んでください。
TEMPO TOO FAST	トラックを、録音したときよりもかなり速いテンポで再生させているため、正しく再生できません。	テンポを調節してください。
TEMPO TOO SLOW	トラックを、録音したときよりもかなり遅いテンポで再生させているため、正しく再生できません。	
TOO BUSY TOO BUSY OMSG	本体システムで、データが処理できませんでした。 「TOO BUSY OMSG」の場合： 録音したときよりもかなり遅いテンポに設定したフレーズにループ FX をかけようとしているため、データが処理できませんでした。	演奏テンポを下げてください。 「TOO BUSY OMSG」の場合は、録音時のテンポに戻してください。 現在の内容をメモリーに保存してください。 頻繁に表示されるようになったときは、パソコンにデータをバックアップしてからファクトリー・リセット「SYS + MEM」を実行し、そのあとでデータの復元をしてください (P.25、P.20)。
UNDEFINED ERR	録音／再生／オーバーダビング中に、原因不明のエラーが発生しました。	お買い上げ店、またはローランドお客様相談センターにご連絡ください。
MIDI		
BUFFER FULL	受信した MIDI メッセージの量が多いため、正しく処理できませんでした。	RC-600 に送信する MIDI メッセージの量を少なくしてください。
OFFLINE	MIDI ケーブルの接続に問題があります。	ケーブルの抜けや断線がないことを確認してください。
その他		
MEMORY FULL	本体メモリーが不足しています。このメッセージが表示されると、録音やオーバーダビングが途中で終了してしまうことがあります。	不要なメモリーをクリア (P.13) してから、録音をやり直してください。
STOP LOOPER	録音／再生／オーバーダビング中は、操作できません。	停止させてから操作してください。
STOP ALL	録音／再生／オーバーダビング／リズム再生中は、操作できません。	すべてを停止させてから操作してください。
STOP ALL&SAVE	録音／再生／オーバーダビング／リズム再生中で、さらに保存していないデータがあるときは、操作できません。	すべてを停止させてから、メモリーを保存 (P.13) してください。
UNSUPPORTED FILE	再生不可能なオーディオ・ファイルです。	オーディオ・ファイルのフォーマットを確認してください。 RC-600 にオーディオ・ファイルをインポートするときは BOSS TONE STUDIO を使ってください。

工場出荷時の設定に戻す (ファクトリー・リセット)

すべての設定を工場出荷時の設定に戻すことができますが、工場出荷時の設定に戻したい項目を指定することもできます。

※「ファクトリー・リセット」を実行すると、お客様が設定した設定は失われます。必要なデータは、パソコンにバックアップしてください。

1. [MENU] ボタンを押します。

MENU 画面が表示されます。



2. PAGE [◀] [▶] ボタンで「FACTORY RESET」のあるページを選び、[4] (FACTORY RESET) つまみを押します。



3. [1] ~ [4] つまみを回して、戻したい設定を選びます。

設定値	説明
MEMORY	メモリー 01 ~ 99
SYSTEM	システム設定
MEMORY+SYSTEM	メモリー 01 ~ 99 とシステム設定

※ 中止するときは、[EXIT] ボタンを押します。

4. [ENTER] ボタンを押します。

ファクトリー・リセットが実行されます。

※「EXECUTING...」と表示されている間は絶対に電源を切らないでください。

ファクトリー・リセットが完了すると、プレイ画面に戻ります。

主な仕様

サンプリング周波数	44.1kHz
AD、DA 変換	32 ビット
内部演算	32 ビット浮動小数点
録音／再生	トラック数：6 データ形式：WAV（44.1kHz、ステレオ 32 ビット浮動小数点） 約 1.5 時間（1 トラック）、約 13 時間（メモリー合計）
リズム・タイプ	200 種類以上
リズム・キット	16 種類
エフェクト	INPUT FX： 49 タイプ TRACK FX： 53 タイプ MASTER FX： 2 タイプ
メモリー	99
規定入力レベル	MIC IN 1、2： -40dBu INST IN 1、2： -10dBu
最大入力レベル	MIC IN 1、2： 0dBu INST IN 1、2： +7dBu / +20dBu（切替）
入力インピーダンス	MIC IN 1、2： 3k Ω INST IN 1、2： 1M Ω / 25k Ω（切替）
規定出力レベル	MAIN OUTPUT： -10dBu SUB OUTPUT 1、2： -10dBu
最大出力レベル	MAIN OUTPUT： +7dBu SUB OUTPUT 1、2： +7dBu
出力インピーダンス	MAIN OUTPUT： 1k Ω SUB OUTPUT 1、2： 1k Ω
推奨負荷インピーダンス	MAIN OUTPUT： 10k Ω以上 SUB OUTPUT 1、2： 10k Ω以上
ディスプレイ	グラフィック LCD 128 × 64 ドット（バックライト付き）
接続端子	MIC IN 1、2 端子：XLR タイプ（バランス、ファンタム電源：DC 48V、10mA Max） INST IN 1、2 端子、MAIN OUTPUT 端子、SUB OUTPUT 1、2 端子：標準タイプ PHONES 端子：ステレオ標準タイプ CTL1,2/EXP1 端子、CTL3,4/EXP2 端子：TRS 標準タイプ USB 端子：USB B タイプ MIDI（IN、OUT）端子 DC IN 端子
電源	AC アダプター
消費電流	1.2A（ファンタム電源オン時） 1.1A（ファンタム電源オフ時）
外形寸法	435（幅）× 163（奥行）× 66（高さ）mm
質量	2.4kg
付属品	AC アダプター 取扱説明書 「安全上のご注意」チラシ 保証書
別売品	フットスイッチ：FS-5U デュアル・フットスイッチ：FS-6、FS-7 エクスプレッション・ペダル：FV-500H、FV-500L、EV-30、Roland EV-5

※ 0dBu = 0.775Vrms

※ 本書は、発行時点での製品仕様を説明しています。最新情報についてはローランド・ホームページをご覧ください。